

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日
令和4年6月14日（火）

2 確認箇所
メガフロート周辺

3 確認項目
メガフロート周辺の状況

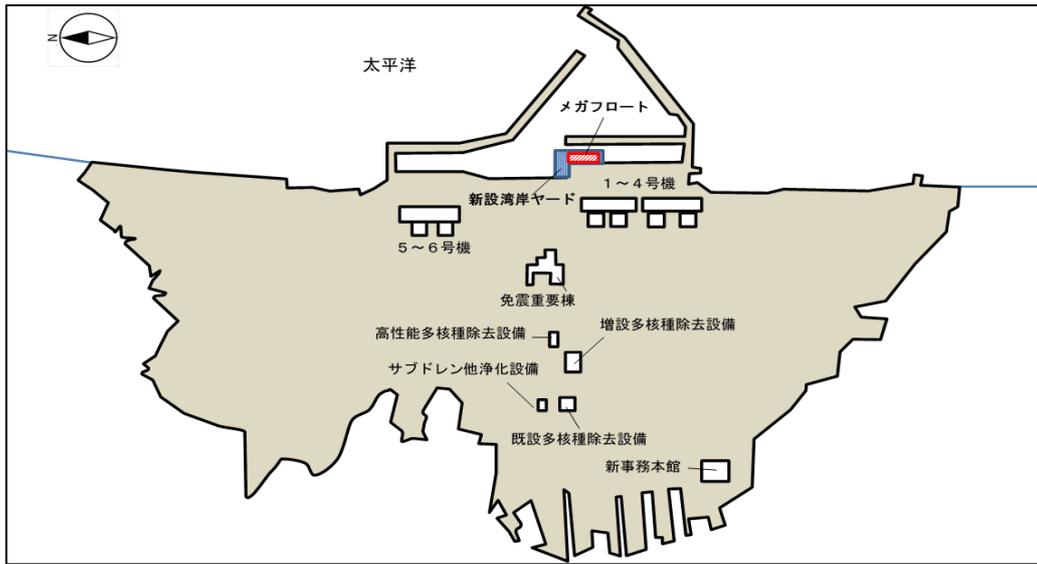
4 確認結果の概要

東北地方太平洋沖地震の津波により浸水した5・6号機タービン建屋の滞留水を一時貯留するために活用されたメガフロート[※]については、津波等の発生時には漂流物となり、周辺設備を損傷させるリスクがあることから、港湾内に着底させ、護岸及び物揚場として活用する工事が平成30年11月から令和2年8月にかけて実施された。

その後、メガフロート及び周辺は護岸及び物揚場として有効活用するため、メガフロートと護岸の間で埋立工事が行われ、メガフロート上では盛土工事が行われたことから、今回、その状況を確認した。（図1）（前回確認：[令和3年8月2日](#)）（写真1）

- ・メガフロート及び周辺の埋め立てされた箇所（新設港湾ヤード）はヤードとして活用されており、多核種除去設備等処理水希釈放出設備設置に伴う環境整備工事の一環で掘削された海底の土砂が仮置きされていた。（写真2）
- ・ヤードの東側には海底の掘削時に土砂と共に回収した土砂混じりの海水を処理するための設備が設置されていた。（写真3）
- ・ヤード北側の舗装やメガフロート上の盛土した箇所などに今年3月に発生した地震による地割れ等が見られ、ヤード北側の舗装に生じた地割れした箇所は土砂により補修されていた。（写真4）

※ 全長約136m、全幅約46m、全高約3m、貯水量約1万m³の鋼鉄製の大型浮体式構造物。他県で海釣り公園として使用していたものを平成23年5月に発電所港湾内に移動し、平成24年11月まで使用した。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
メガフロートの外観
(北東側から撮影)



(写真1-2)
新設港湾ヤードの状況
(北側から撮影)



(写真2)
掘削された海底の土砂の状況



(写真3)
海水処理設備の状況
(南東側から撮影)



(写真4-1)
新設港湾ヤードの地盤沈下の状況
(西側から撮影)



(写真4-2)
新設港湾ヤードの舗装の沈降状況
(南西側から撮影)



(写真4-3)
新設港湾ヤードの舗装の地割れ箇所の
修繕状況
(西側から撮影)



(写真4-4)
メガフロート上の盛土した箇所の地
割れの状況
(北側から撮影)

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。